



主張するセルフ・アドボケートたち

No. 3

「コモディイダ浜田山店で働いて7年。毎日ハッピーに暮らしてます」

千野 真広 (25歳・東京都)

5月号から、ダウン症のある人たちに自分の言葉で主張していただく新コーナーを設けました。まずは、3月20日のイベントで堂々とメッセージを伝えてくれた4名の方に、順に登場してもらっています。

コモディイダというスーパーの鮮魚コーナーで働いていて、4月で8年目です。魚が好きなので、コモディに入れてよかったです。朝8時からぼくの仕事ははじまります。

まず、タオルをあらう、ダンボールのかたづけ、商品売り場にならべる、賞味期限チェックなどをします。それから、売り場やバックヤードのそうじをします。

終わったら、チーフから次の作業の指示をもらいます。その指示を、姉がつけてくれた特別なノートに書きます。

見本を見ながら作業をすすめます。

しらす干し、ホタテ、ブラックタイガー、ホタルイカ、いくらなどをパックにつめて、機械で値段と日付を付けてラップをかけます。商品になるからしっかりていねいにやります。

仕事はきびしく、失敗することもあるけど、気持ちをきりかえてチャレンジをつづけます。

仕事がいっぱいできると、うれしいです。

人が少ないときは、ぼくの作業がふえて、残業もします。

みんな協力して、助け合って仕事をしています。ぼくもその一員でうれしいです。

この前、パートさんに台車の洗い方を教えてあげました。

「千野君は力があってすごいね。おばさんの私とはちがうね」と言われました。

うれしくて、心があたたかくなりました。

毎年バレンタインデーには、パートさんたちからチョコレートをたくさんもらいます。みんなから愛されているなと思います。

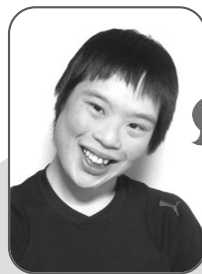
ぼくはもう大人で、社会人です。

自分のお金で、計算しながら、買い物をしたり、お茶を飲んだりして楽しんでいます。ファッションが好きなので、デザインの勉強もしています。

休みの日は、友達と遊んだり、彼女とデートをしたり、ヘルパーさんと一緒に出かけたり、家族と温泉旅行に行ったりしています。みんなと一緒にいるのが好きで、うれしくて、幸せだなと思います。

小さい頃から育ててくれて、ぼくはこんなに成長しました。

お母さん、産んでくれて感謝しています。ありがとうございます。



プロフィール

小・中学校は心障学級、高等部は養護学校に。卒業後は、スーパーの鮮魚コーナーのバックヤードで働いている。趣味は絵を描くこと、本を読むこと。ギリシャ神話やモンスター等の本からインスピレーションを得て、ファンタジックな絵を描く。ロック系のファッションが好きで、レザーグローブ、鉤爪(かぎづめ)や龍のリングにあこがれている。